



旧野蒜駅舎の復興伝承館にて

の商工会青年部の力のおかげだとの説明。  
還暦を過ぎたら若者に対して、口は出さず、支援すべきだとのこと。  
現在の女川は漁協も新設され女川駅周辺の開発もきれいに整備され、復興の勢いを感じました。

● 8月24日  
東松島市野蒜（のびる）地区で復興状況の説明を受ける語り部さんにバスで説明を



東松島市 長福寺鎮魂の碑にて

受けながら現地を案内して頂く。震災から数年たつて、震災の復興とともに景色が徐々に変わり、住まいが変わるにつれ各人の生き方の中で風化していくことが心配だ。だから私は語り継いでいきたいとの思いが強く感じられました。東松島市にある長福寺鎮魂の碑前で、議長が鐘を鳴らし、全員で冥福を祈りました。

産業  
建設  
厚生

常任委員会

津波からの復旧、復興、  
高台移転の取り組みを伺う



委員長 池内 弘道  
いけうち ひろみち

【宮城県気仙沼市】

気仙沼市はこれまで、幾度となく津波被害にあった経験から震災前の取り組みについてハード面の整備、防災情報システムの整備、津波避難ビルの指定、ソフト面では、防

災マップワークショップ、避難訓練、防災教育、学校を核とした地域防災力の向上に取り組んできたそうです。  
しかし、大震災における被害は、想像以上のものだったそうです。想定していた避難所より実際は、お寺や広い敷地の家に避難している被災者が多く、実態が把握できない状態だったそうです。電気、水道、ガスが使用できないので、被害を受けてない全ての

人が被災者になったと話がありました。電気は2カ月後、水道は3カ月後の復旧だったそうです。その間電気に頼らない暖房器具の備蓄や、燃料の備蓄の必要があります。避難活動には地域の特性があるので、避難所運営は地域を良く知っている地元の方、議員、議員が行う方が、運営がスムーズに進んだそうです。やはり経験された方の言葉はとても重く伝わりました。



上と下は、気仙沼市大沢地区の  
集団高台移転の視察の一コマ。



気仙沼市松崎浦田地区の集団高台移転を視察

高台移転の取り組みについて松崎浦田地区と、大沢地区の現地視察も行い、説明を受けました。住民主導の協議会